

2023 年度 G T セミナー GT サミット 2023①

第337号 2023年8月14日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社カグヤ 奥山卓矢

GT サミット①

2023年8月7日～8日に「GT サミット 2023」を
開催しました。

全国の GT 園の園長先生方にご参加頂き、数年ぶりにお会いする
園長先生方同士の笑顔が会場に溢れていました。

今回、オンライン参加でご参加いただいた先生方も、
ぜひ来年は会場でご参加ください～！

本誌含め、3回に分けて GT サミット 2023 の内容をお送りする
予定です。

【セミナープログラム】

8月7日(月) セミナー1日目

- 13:30～15:30 渡邊寛子様(保育園を考える親の会代表) ご講演
- 15:30～15:50 休憩
- 15:50～17:50 藤森代表 ご講演
- 18:00 1日目終了

8月9日(火) セミナー2日目

- 9:30～11:30 実践発表
- 11:30～13:00 昼食
- 13:00～15:00 Q&A
- 15:00 2日目終了

見守る保育
藤森メソッド
GT givingTree
日本保育協会認定保育士研修センター

GT サミット 2023

8/7 [月]・8 [火]

来るべきAI時代。
保育はどう変わる？
保育理念を共有する理事兼園長先生が
全国から集り、ぜひくばる人に
語り合えるセミナーです。

参加資格: GT園

オフライン(現地)参加
ワイム貸会議室高田馬場
〒160-0002 東京都千代田区高田馬場1-10-1
参加費用: 17,000円(税込) | 定員: 80名(先着順)
別途費用: お弁当代1,340円(税込)(持参可)

オンライン(ZOOM)参加
参加費用: 17,000円(税込) | 定員: 100名(先着順)

講師: 渡邊寛子様(保育園を考える親の会代表)

8/7(月) セミナー1日目	8/8(火) セミナー2日目
13:30- 会場受付/お昼の準備	09:30- 会場受付/Zoom入室開始
13:30- 開会式	09:30- 実践発表
14:00- 休憩	11:30- 昼食
14:00- 渡邊寛子様	13:00- Q&A
15:30- 藤森代表	15:00- 閉会式
18:00 1日目終了	18:00 2日目終了

参加申し込み方法:
ポータルサイト「ポータル」の申込みフォームよりお申し込みください。
<http://www.givingtree.jp>

お申し込み後、ご登録いただいたメールアドレス宛に詳細な申込み確認メールを
メールマガジン「給食の時間」にて、お送りいたします。
ご不明な点がございましたら、お気軽に本誌編集部までお問い合わせください。
お問い合わせ先: GT事務局(株式会社カグヤ) | TEL: 03-1744-8423

保育環境研究所ギビングツリー代表 藤森平司氏（新宿せいが子ども園 園長）

—はじめに—

皆さん、久しぶりの方も多く数日前からワクワクして待ち望んでいた。台風が心配で、あの人が来れないか？ハラハラしていたが顔を見たらよかったと思うのと同時に、今度は帰れるかが心配。久しぶりの方もいるし、お会いしたことがないような方もいるので、2時間たっぷりあるので、一言ずつ自己紹介をしてもらおうと思っています。皆さんが、あの人ね！というエピソードを言ってもらって、そうするとこの人なんだと思えるので、マイクを回してもらって皆さんにひと言ずつ、園名と思っていることなど話してもらえたらと思います。

（自己紹介省略）

皆さんありがとうございました。学ぶことが多くあって明日もあるが、少し講演させてもらいます。臥竜塾でセミナーをやっている。今年は2年目の職員が、去年1年担当したクラスの報告や感想を言っている。先月末は1歳児クラス、その前は0歳児クラスの話をしました。学校を出て、うちの園の0歳の担任になった印象があると。それが、学校で学んだことと全く違うことにびっくりしていた。学校では相変わらず、白紙論を教えている。子どもは、何も出来ない、知らないから導かないといけないと習ったが、実際にやってみたら、子どもは色々出来ることを知ったと話していた。1年目入ってすぐ、数か月でも気づけるのに、何で大学の先生は何十年も気づかないのだろう？実際に入れば、赤ちゃんは色々なことが出来る事に気付く。どうして気付かないのかを考えたら、出来ないと思って対応したら、それでできてしまう。子どもに教えたり、指導したら、そのまますぎていってしまう。やらせてみないと、こんなことが出来ると気づかないのかなと思った。しかし、0歳児の研究は進んでいます。そういうことに対して、私たちは新しいことを学んでいるか。新しいことに目を向けているか。

若い園長と話をしていたら、若手の園長会がある。その中で「STEM」の言葉を知っているのは2割位。チャットGPTを知っているのも2割位。未来の子どもたちを相手にしているのと思う。いいか悪いかではなく、どんな風に時代が動いているかを私たちは、敏感に見ていかないといけない。その中で最近思ったことのひとつが、1歳児クラスの報告でした。いくつか1歳児をもって感動したことがある。そのひとつが1歳児の順応性の高さにはびっくりした。慣れ保育、ならし保育の期間に順応性の高さにはびっくりしたと職員が感想を言っていた。

—アロマザリング—

私がおのあと解説で、アロマザリング・アロペアレンティングの考え方があって、アロは異なった。マザリングはお母さん。母親と違った人に順応し得るということをハーディーという人が打ち出した。そのアロマザリング・アロペアレンティングをネットで検索すると分かるが、人間科学学術員の教授が書いているが、このように書かれています。「母親の子育ての負担をシェアする「アロマザリング」の重要性が認識され始めています。母親の役割を考え直す必要があるかもしれません。」これはどれを見ても話題。このアロマザリングを見直そうという動き。こんにち、事あるごとに親の責任論が取り沙汰されています。子育てに対する不安やストレスが膨らむ中、母親たちは自分の子育てを振り返る機会を失っているのではないのでしょうか。私自身、専門とする発達行動学から、「ヒト」にとってふさわしい子育てとは何かを考えたとき、現代の親子関係は矛盾を抱えているように感じています。大多数の動物におい

て、母親が子育ての中心であることは間違いありません。しかし、中には、母親以外の個体が子どもの世話を引き受ける「アロマザリング」によって母親の負担を軽減し、繁殖の可能性を広げていった動物もいます。その好例がヒトです。他の霊長類よりもずっと行動的に未熟な状態で生まれ、親の養育期間も長いヒトにとってアロマザリングはなくてはならないものでした。同時にアロマザリングは、子どもの社会性の発達や、世話するのが若い個体である場合は子育ての学習という意味でも、極めて重要なものです。つまり、アロマザリングを介した母と子とその周囲の互恵的な関係をベースに、ヒトは家族や社会を営んできたといえるでしょう。

これは常々、人類の進化の過程で子どもを多く生むために共同保育をしてきたと話してきたがそういうことです。これが何で急に言われているかというと、

しかし、近年の核家族化や近隣との付き合いの希薄化により、アロマザリングを活用した子育てが成立しにくくなり、母親のみに子育ての負担を負わせるケースが増えるようになります。このような状況にあって、当の母親たちも「母親の役割」に対する意識を強めていくわけですが、イギリスのジョン・ボウルビィが発表した「アタッチメント理論」もそれに影響を与えていたと思います。アタッチメント理論の基本的な考え方は、子どもには母性的人物への「くっつき (attachment)」を求める性質があり、それによって子どもは守られるというのですが、その理解にはいくつか注意が必要です。まず、子どもが求める相手は必ずしも母親ではないこと。また、親と子ども双方の互いに対するネガティブな情動を見落としがちであるということ。そして、この理論がイギリスの個人主義的な育児風土で生まれたということです。ところがこの後、当時の社会状況や日本の伝統的な母性観の上に、母親が愛情を尽くすことで子どもが健全に育つという認識が過剰に日本に広がってしまったのです。

そうして担当制が生まれてしまったということがあります。それはおかしな理論で、個人主義のイギリスで生まれ、やたらと母親信仰の強い日本で評価されてきている。そういうことによって、そういうようなことが増えてきているし虐待も増えて来ている。それがまず書いてある。[\(太字：早稲田ウィークリー 2016年5月27日記事より引用\)](#)

何でこういうことを言ったかというと、1人が一人を丁寧にやることで落ち着くとか、配置基準をもっとよくして、相手をするのが丁寧な保育である、ということが政府の育休を延ばす元になっている。1対1にした方がいいなら、親に3歳まで育休を取らせ、家庭で見させる方がいいというのがあって、その根底には、その考え方がある。一人ずつ把握するメリットはあるが、ただそれを愛着と結びつけるのは、保育園をつぶすのかと思う。保育園の肯定論にはアロマザリングがある。子どもは、母親意外の人にも順応し得る。保育園に預けるのは、子どもがかわいそうじゃなくて、社会を学ぶのにいい、子どもにとっていい施設だというのが、ここへ来て悪い施設になり始めている。乳児保育をなくして、やるならベビーシッターや家庭的育児、1対1で見るところか、親に育休を取らせ、施設としての保育園はいらないだろうという理論になり始めている。特に乳児はいらないだろう、1対1は、最終的に保育園は無理。その理論で心配なことがこの間記事に出ていました。小規模保育園があるが、それは012歳を対象にしているのが、これからは3から5歳児までいいとなる。これが導入される理由に、最近の丁寧な保育。1対1で見の方が子どもにとっていいという理論があるから、小規模でもある。最初の頃は、3歳以上の子どもたちは集団を学ばないといけない時期だからと、当初は0歳から2歳に限定されていた。子ども家庭庁は当時、3歳以上の発達には、集団の保育が重要であるということが考えの基本にあったが、近年は、一人ひとりの発達に寄り添える少人数保育の方がメリットがあるということが起きているので、そっちに移行しようとしている。私からすると危険なこと

—最近の記事から—

コロナがあったのでそれを証明することがあるが、皆さんは知っていると思うが、今年の7月11日の新聞に京大・慶応のチームが首都圏の認可保育園で5歳児が発達を調べたら、4か月遅れていたという結果が出た。なんで遅れたかということ、その期間、在宅勤務となり両親とだけ過ごす時間が増え、他の子と触れ合うことがなかったから、という研究が出ている。子ども同士の発達がないと、遅れるというのがコロナの研究なのに出てきている。コロナの自粛期間で起きたことが育休で起きる。家でアロマザリングが可能になるような地域や、いろいろな人が一緒ならいいが、今は核家族化になり、地域にそれを求めることは無理。違うニュースだが5月15日の記事で、世田谷の小学校では、4、5人のグループに分かれ、机を向かい合わせた給食を食べ始めた。去年は前を向いて食べていたのを対面にしたとあった。一方、新宿区の小学校では、隣り合う席同士の会話は制限しないが、対面に戻す予定はないとあった。この間、保護者話していた時に、校外学習で5年生が山へ行っても、全員前を向いて食事をしてた。それは、その方が会話をしないので、早く、時間内に食べれるからという理由なんですね。それに対して、小児科専門医がこう言っています。「複数人が会話をしながらの食事の時間は、子どもの社会性、コミュニケーション能力の発達にとっても重要。とくに低学年では友達が食べるのを見て、食わず嫌いだっただ素材にトライしようとするチャレンジ精神を抱く機会になり、食べられた時の達成感、褒められた経験を得る好機にもなる。今後、第9波の可能性も否定できないが、給食をどう食べるかは、教育現場に科学的に判断を求めるのは負担が大きい。教師に、科学的判断は負担が大きいから、専門家がどんなメリットがあるのかをきちんと伝えないといけない。」と言っています。マスクも個人の自由と言っています。しかし、科学的知識のない子どもにどっちでもいいよ、ではなくて、することの意味と、しないことの意味をきちんと伝えるべきという記事です。ほっておくと、時間内に食べられるから前を向いていた方がいいとなる。最近の記事を見ると、全体的なそういう動きになり始めている。私たちは保育園の存在意味は2つあって、一つは乳児の研究が進んでいる。乳児の研究が進むと、脳感受性ではないが、012歳が感受性の高い時期。この高い時期を保証するための環境が子ども同士、子ども集団であることが一つ。もう一つが、アロマザリングの考え方で、なんで人類はそういう力を持っているのか。それは、その時期に子ども同士、共同保育をしてきた。その中で、社会性を身につけてきた。そういうことを逆に私たちは訴えていかないといけない。小さいころから子ども同士の関わりでいろいろなことを学んでいる。難しいのが保育の質。丁寧に一人ひとり相手をすることが、保育の質が高いというのは大間違い。保育の質の高さは、子どもの発達をきちんと保証できることです。先ほどアンドロイドかアバターの話があったが、うちへコンピュータの開発をし、色々な会社のコンサルを提案をしている人と話をしました。私が勧めたい保育はこういうものだが、AIでできることはあるかを聞いたら、2人が二人とも、「あなたが進めたい保育は、あなたのアンドロイドをいくつも作って、日本中、講演して廻るしかありませんね」と言われた。今チャットGPTを含め、人類が減びると言われているが、そんなことはない。そんなことは出来ない。私たちがやろうとしていることは、機械でやれることではない。そういう意味で、一言ずつ皆さんに言ってもらったのは、それぞれの園で、いろいろなことを考え、試行錯誤しながら、ある成果を感じながら進めていくことをぜひ、子どもにとっていい環境とはどういう環境か。今問題になっているのが、私が常々言っている、いわゆる0号認定という、就労に関係なく、預けられる権利を持つことを言っているが、国はその一部を取って、週に1、2日か預かる制度を取ります。しかし1日2日では集団は身になりません。慣らし保育で、泣いて終わりです。それでも文京区は最初試行的にやり始めたら、希望者が殺到している。親が家にいることが負担になってきている。待機児もいるのに、そこまで預かれないと国は言うが、小学校は待機児がいるのと思う。小学校は待機児はいない。保育園は少なくしか作らず、待機児がいるから無理はないでしょう。全ての子が入れる整備をしていくべきだと思います。1対1で子育てしている時代はあり

っこない。一人のお母さんが一人の子をずっと世話をするなんて歴史なんてない。その方が落ち着くなら、そういう風に生み方や育て方をしてきたはず。それだと逆に社会性が見につかないことになっている。明日、Q&Aの中でもう少し触れたいと思います。一人ずつの話を聞きながら、課題や頑張りを知ることが出来た。私としてはよかった。今日はこれで終わりたいと思います。ありがとうございました。

本稿は、2023年8月7日に開催した「GT サミット 2023」の基調講演の内容をまとめたものです。

(文責/奥山卓矢)